

表2 相談内容別来談者実数及び延べ(日)数

	平成5年度		平成4年度	
	実数(名)	延べ(日)	実数(名)	延べ(日)
計	162	421	160	431
修学・進路関係	113	189	123	171
進路関係小計	62	96	68	87
就職	2	2	1	2
進学				
留学・旅行	3	3	6	6
休学・退学	5	5	5	7
転科・転学部	15	19	22	23
再受験	16	19	16	19
留年	4	16	4	4
その他の進路	17	32	14	26
勉学・研究	32	73	50	76
課外活動	3	3	1	1
その他	16	17	4	7
心理・適応関係	44	227	32	255
精神衛生	31	116	22	204
対人関係	8	24	8	33
自己探究	3	72	1	16
その他	2	15	1	2
経済生活	5	5	5	5
その他	5	5	5	5
性格関係	5	87	2	18
健康	8	24	8	33
進路	31	116	22	204
生活	110	186	122	170
その他	3	3	1	1
その他	5	5	5	5

と思われる。
相談内容別実数と延べ数は、表2の通りである。
項目ごとの数字は、十分に大きい数字ではないので、その増減についてコメントすることは難しいが……。
「転科・転学部」はさらに減少した。これは、ほとんどの学科で「欠員」がなく、この年度転科・転学部が不可能に近い状態であったことも影響しているものと思われる。

「精神衛生」は、実数で増加して延べ数で減少した。「ノイローゼ」「精神病」などのクライアントがくり返し来談するパターンが少なくなっているということがある。この数字は、非常勤カウンセラーを増やしたことも影響しているかもしれない。相談内容別統計は、各カウンセラーの置かれた立場や考え方にも左右されやすい。非常勤カウンセラーは、私たちの相談室では、定期クライアントをたくさん持つことは難しい立場にある。また、具体的数字は公表しないことになっているが、カウンセラーによって、「勉学研究」や「精神衛生」が多い人もあるし、「自己探求」が多くなる人もある。
来談者延べ数の月別内訳は、表3の通りである。
一月、二月は、前年度が移転のため

表3 来談月別来談者延べ(日)数

計	平成5年度		平成4年度	
	延べ(日)	実数(名)	延べ(日)	実数(名)
計	421		431	
4月	85		101	
5月	51		44	
6月	46		46	
7月	31		38	
8月	5		9	
9月	46		42	
10月	41		50	
11月	36		28	
12月	18		35	
1月	27		9	
2月	26		17	
3月	9		12	

の休室期間にかかっていたため、この年度は大幅に増加したように見える。今年度、学生相談室は、表4のような体制で、学生の相談に応じている。
学生相談室は、広島大学の学生の相談なら、なんでも受けつける。
勉強のしかた、成績不振、不登校、留年、休学、教員などの資格のとり方、留学、クラブ活動、宗教団体とのトラブル。進路変更、転科・転学部、大学再受験、就職、大学院進学、友達づくり、対人関係、先輩や教師とのトラブル。失恋、性格、自己開発、不安、劣等感、性的な悩み、いじめ、迫害。経済生活、契約販売やローンのトラブル。交通事故、大学への苦情、など……。 (そして、相談室だけで解決

表4 学生相談室内

		学生相談室 (西条)	学生相談室 東千田分室
場所		総合科学部事務棟3階	総合科学部東千田校舎本館 正面玄関から入って2階
電話		直通 0824-24-6328, 6329	代表 082-241-1221 内線 2304
開室時間と担当者	月曜日	9:00am~4:00pm 大島啓利	9:00am~5:00pm 岩村 聡
	火曜日	9:00am~4:00pm 福留瑠美	(閉室)
	水曜日	9:00am~5:00pm 岩村 聡	(閉室)
	木曜日	9:00am~4:00pm	10:30am~3:00pm 福留瑠美
	金曜日	9:00am~4:30pm 岩村 聡	(閉室)
		4:30pm~6:00pm	
		*オープン・フライデー	
	土曜日		2:30pm~5:30pm
		(受付: 藤地智美)	*土曜友の会 (月1回)

(*印はグループ。担当、岩村)

しきれない問題は、どこへ相談したらいいかをいっしょに考える。) カウンセラーとの相談の特色は、まず、一対一で必要なだけたっぷり時間をかけて、必要な回を重ねて、相談ののつてもらえること。また、相談の秘密が守られること。さらに、アドバイスの押しつけがないこと、などである。あなたも、いつでも気軽に学生相談室を訪ねてください。
また、不登校、留年、ノイローゼなど、指導困難な学生をかかえてお困り

の先生方。どうぞご遠慮なく、学生相談室へご相談ください。



二、グループ

一方、グループ活動の方は、とりわけ、継続型グループに関して、定員削減やキャンパス移転等の影響で、活動がやや不活発になっている。

「オープン・フライデー」は、授業期間中毎週金曜日午後四時三十分から六時まで、この年度からは西条の学生相談室で開催することにした。しかし、前年度までのメンバーは、あるいはキャンパスが離れ、あるいは卒業し、新しいメンバーはなかなか集まらなかった。開店休業状態の日も多く、この年度は結局十一回しか会として成立しなかった。定員削減のため唯一の専任相談員になった筆者は、相談室の管理的業務などの負担も増え、グループに十分エネルギーを割く余裕がなかった。

その結果、この年度の参加者は実数で六名。うち学部生三、院生等二、教職員一。延べ数は二十名、平均三名であった。それでも、後期にはささやかなな忘年会や追い出しコンパも行った。

おかげで新しい常連メンバーもできてきて、今年度は今のところ毎週順調に集まりが開かれている。

この会は会員制ではないので、広大生なら誰でもいつでも参加できる。しかも、都合のいいときに（時間の途中からでも）自由に出入りできる。会費二百円でお茶やコーヒーやお菓子が出る。今年度からは、以前のように、月一回、その月に生まれたメンバーのために、バスデー・ケーキも用意することになった。

「土曜友の会」の方は、月一回土曜日午後二時三十分から五時三十分まで、会場をプレハブの相談室から「分室」にかけて開催することになった。四月は移転直後の新学期に備えて休み、五月から十一回開催して、参加者は実数で一〇名。うち、広大生三、教職員二、卒業生三、その他二。延べ数は四十五名、平均四名であった。

今後の開催予定日は、六月四日、七月九日、八月六日、九月三日、十月八日など。会費はやはり二百円。この会は、広大生のほか、卒業生や他大の学生や社会人にも開放している。これらの会は、おたがいに最近の生

活や当面している問題を話しあったりする「仲間の会」をめざしている。

こんなグループに、あなたも、気が向いたときに参加してみませんか？

第十八回（合宿）「エンカウンター・グループ」は、二月下旬、三泊四日の日程で、西条研修センターで開催した。参加者は学生三名とスタッフ三名、それに部分参加のゲスト一名にきてもらった。ゆつくりのんびりした、よいエンカウンター・グループだった。

この会は、年々参加学生が減っているの、少なくとも今年度は開催しないことにした。

土曜友の会主催の第十六回「エンカウンター・グループ」は、八月下旬、三泊四日の日程で、大野町でおこなった。参加者は三十六名。

今年度も八月十九日（金）～二十一日（月）、大野町の国民宿舎宮浜グリーンロッジで開催する。ファシリテーターは、大島啓利（広島修道大学学生相談室、当相談室非常勤講師）、大西俊江（島根大学教育学部）、秀島和則（広島県立身体障害者リハビリテーションセンター）、山崎恭子（広島修道大学学生相談室）、山崎成雄（出雲高等学校）、それに筆者岩村、ほか若干名。参加費は学生四万一千円、一般四万四千円。申込締切は八月五日（金）である。

この会や、毎年二月に開催している「人間関係研究会宮浜エンカウンター

・グループ」等では、オープン・フライデーや土曜友の会やその他の研究会など、学生相談室周辺の活動の仲間（卒業生等）が中核となり、全国からの参加者に「あたたかい」エンカウンター・グループを提供している。

あなたもいちど、このような会に参加してみませんか？

三、研究会活動

この年度は、学生相談室周辺の研究会活動に関して、新しい発展があった。

「広島学生相談研究会」は、私たちが呼びかけ人になって、六月に発足した。参加者は、各大学の学生相談室や保健管理センター、保健室、学生部等の、カウンセラーや事務官、事務員、看護婦など。会場は持ち回りで、最初は広島修道大学で開催。九月は広島工業大学、十一月は広島県立大学、一月には広島経済大学でそれぞれ開催した。参加者数は十三名から二十五名と、回を重ねるごとにふえている。

私たちの学生相談室が当番で開催した「第十八回中四国大学精神衛生・学生相談研究会」も、盛会だった。三月中旬、三日間の日程で、総合科学部内で開催。初日には、本学保健管理センターの兒玉憲一先生の発表、二日目には九州大学の峰松修先生の講演と、島

根大学の西俊江先生の発表、三日目には広島修道大学の山崎恭子さんの発表などがあった。参加者は三十五名。上述のような広島地区の関係者や、中国各大学の学生相談関係者に加えて、関西地区などからも経験豊富なカウンセラーの参加があり、なごやかな中にも充実した会にすることができた。

四、平成六年度ガイドン 入期間中の来談状況

年度がかわってことし平成六年度は、前年度の理学部に続き、残るすべての学部で、いわゆる「大綱化」に沿った「一貫カリキュラム」に向けて改革が行われた。学生相談室としては、このような時期、学生の相談需要が急増する可能性があることを予想し、あわせて前年度来談者数があまり伸びなかったことへの対策も考慮して、例年の臨時体制をやや強化し、宣伝にもいつもより力を入れた。

その結果、前年度一年間の来談者実数に匹敵する多数の来談があった。

この間の学生からの相談内容や私たちが感じた問題点などは、新しいカリキュラムやその運用の改善に役立つところも多いものと考え、ここにページを割いて詳しく報告することにした。

(一) 学生相談室の臨時体制

四月十日頃からの数日間、例年私たちが特別の体制を組むことにしている。

今年度も、十二日と十三日の二日間、教養的教育等のカリキュラムにくわしい先生方(総合科学部学務委員)を臨時相談員としてお願いし、主として新生入生からのその方面の相談に対応してもらったことにした。今年度実際に協力してくださった先生は、水田義弘先生(学生相談室長でもある)と中野博文先生であった。

また、非常勤相談員の大島先生と福留先生には、十一日から通常の勤務を開始してもらい、都合のついた福留先生には十二、十三の両日も東千田分室に詰めてもらうことにした。

さらに筆者も、この週は毎日西条の相談室に待機して、学生に対応することにした。

PRは、総合科学部の新入生チューターに依頼状を配布したり、新しいポスターを各学部に掲示してもらうなどの強化策を講じた。生協から、そのポスターを貼らせてほしいと申し出があったのも、嬉しいできごとだった。

(二) 来談状況

その結果来談者は、(新入生以外の学生も含めて)四月十二日から十五日のあいだに、一五六名に上った。

来談学生の多かった学部(学科)は、工学部(第二類、第三類、第四類)、理学部(数学科、物性学科)、医学部(医学科)、学校教育学部(小学校教員養成課程)など。逆に来談が少なかったのは、文学部、教育学部、法学部、経済

学部などであった。

来談学生の多かった学部学科の、相談の多かった理由は、確かなところはよくわからない。履修ルール等が他学部学科よりもわかりにくかったからなのかも知れないし、校舎の位置関係やオリエンテーション日程の関係で来談しやすかったからなのかも知れない。少なくとも、関係の先生方等が学生相談室のことをよく宣伝してくださったらしいことは、うすうす伝わってきたので、私たちとしては大変感謝している。

(三) 多かった相談テーマ

この間の学生の相談テーマの主なもの、次の通りであった。

①履修(時間割の作り方)(新入生など)

時間割作成 「時間割作成に関して、わからないところがある」「どこから手をつけたらいいかわからない」(事情があつてガイダンスに出席できなかったため。入学直後から一年間休学していたため。外国人学生、など。)

適当な科目数(単位数) 「最初の学期にどのくらい取ったらよいか」など。
必修・要望科目 「要望科目は、必ず履修しなければならぬのか」など。

指定時間割表 「指定」の科目は、全部聴講しなければならぬのか」「担当教官や教室が複数記載されている指定授業は、どのように選べばよいか」「スポーツ実習の授業はどこで行われるのか」「指定時間表で指定された授業

の曜日・時間を変更したいが、どうしたらよいか」など。

理科系科目の履修 「高等学校で学んだことのない科目を聴講して、理解できるかどうか」など。

外国語の履修 「第二外国語は何を選んだらよいか」「大学院進学のため、外国語の選択に配慮した方がよいか」など。

教職単位の取り方 「専攻以外の教職の免許状を取得するにはどうすればよいか」など。

聴講手続き 「学部の履修届の提出期限までに総合科学部開設授業の選択が確定できないが、どうしたらよいか」「手続きしてしまつた科目を変更するにはどうしたらよいか」など。

その他履修ルールに関する疑問 「教養科目は、どの範囲からとればよいか」「前・後期開設の教養科目を、前期のみまたは後期のみ聴講してもよいか」「既に単位取得した科目を、再度聴講して「可」等の評価を更新することはできるか」など。

②留年学生・未修了学生の履修

③進路
就職、大学院進学、転科・転学部希望、再受験希望、再受験のための休学など。

④精神衛生
不安、不登校、病気の治療、入退院など。

⑤その他
サークル活動、授業料納付方法、訪問販売への対応など。

(四) 相談を担当して感じたこと

期間中相談に対応しながら、とくに、カリキュラム改革や新しいガイダンスに関して感じた主なことをまとめると、次の二点になるか。(これらの感想や提案が、履修ルールを決めたりガイダンスを実施したりされる各学部のご参考になる部分があれば、幸いである。)

①履修ルールやガイダンスを、もっとわかりやすいものにした。

履修ルールは、初めての学生でも、学生便覧等を「読めばわかる」というものでありたい。口頭説明がないとわかりにくかったり、何人も学生が同じ疑問を持ちたり、同じ誤解をしたりするような箇所は、改善したいものだ。たとえば……

「時間割作成の手順」に関しては、簡単に解説した文章が各学部の学生便覧等に掲載されることが望ましいと思う。「一学期間に取得をめざすことが望ましい科目数(単位数)」も、学科・専攻ごとに、「およそ〇〇科目(〇〇〇単位)程度にするとよい」といった説明があるとよいと思う。

総合科学部の「指定授業時間割表」は、初めての学生には、わかりにくい部分が多いらしい。

何よりも、「指定」の意味がわかりにくいらしい。「必修」と誤解する学生が少なくない。表のどこかに説明があると思う。「表中、所属学部学科

の欄に記載された科目を聴講する場合は、指定された曜日・時間に聴講すること。表中の科目は、必ずしも、当該学部学科の全員が履修しなければならない。「必修科目」ばかりではない。必修か必修でないかは、学生便覧を参照すること」など。

表中、「(1)」「(2)」などの「学期」を示す数字も、注書きで説明があるとよい。表中、複数の担当教官・教室が示されている授業に関して、どれを選べばよいのかという質問も、少なくない。「掲示板で指示する」旨、説明してはどうか。

「外国語の選択」に関しては、学科ごとのアドバイスが、もう少し文章になっていると、学生は助かるだろう。「第二外国語は、表中の五つの外国語のうちからどれを選んでかまわない。ただし、将来大学院進学を希望する学生は、指導教官のアドバイスを参考にすることが望ましい」など。

また、学部学科によつては、次のような問題もあった。(改革の過程での未完成な部分かも知れないが、次年度に向けて改善がはかれることが望ましい。)

「教養科目」の定義(範囲)があいまいな学部学科がいくつかある。範囲があいまいなため、たとえば、理科系の学科の学生から、自分たちの専門とは違う理科系の科目を教養科目として履修してよいか、自分たちの専門領域、文化系学生向け「概論」など、い

わば入門的授業を履修してもよいか、などの疑問が出されたりした。

履修基準の単位数欄に、「必修」単位数と並んで「要望」単位数が記入されているため、学生が混乱しやすい学科があった。履修基準に示されている「選択必修科目」が、何々のうちから何単位必修なのか、きちんとした説明のない学科もあった。

時間表では、専門の授業と、総合科学部の指定時間割表で指定された授業の一部が、重なっている学科があった。また、履修届は、提出締切後総合科学部関係の授業に変更があった場合、事後訂正が必要かどうか、指示があると思う。

(これらの点は、関係学部には、より具体的にのご報告を差し上げた。)ちなみに、来談者が少なかった法学部などの履修ルールは、わかりやすい(疑問などが生じにくい)印象を持った。また、教育学部の一部の学科などは、新生生の時間割作成に上級生も協力して効果を上げている印象を持った。

②カリキュラム改革を、学生にとってプラスのものにした。

今回の改革では、多くの学部学科で教養科目等の必修単位数が減り、学生の負担が軽減されて、自由選択の幅が広がったが……。これまで、大学生活のあり方や「教養」の意味について考える機会がなかった学生は、その自由を有効に行使しようという意識は少な

く、ともすれば安易な道だけを選ぶ傾向を見せている。この改革が、学生にとって「進歩」となるよう、オリエンテーションや相談助言体制を強化されることが望ましい。

また、学生の反応からすれば、今回の改革で、履修ルールや新入生向けガイダンスは、従来よりもわかりにくいものになったのではないかと印象を持つ。(体制やルールが改革されたばかりだし、総合科学部以外の先生方にとって、一年次生の履修指導はまだ経験の少ないお仕事だから当然ではあるが。)

新しい体制が、結局学生にとつてよりよい体制であったといえるように、試行錯誤を積み重ね、協力しあつて、改善していきたいものだと思う。

学生相談室や総合科学部の設立に貢献された今堀誠二先生が、かつてハーバード大学を訪問して帰国されたとき、「ハーバードが誇るべき教育は、大学院もさることながら、カレッジにある」と話してくださったことを、私は思い出している。

広島大学の多くの関心が大学院充実の方向に向けられているいま、それを成功させるためにもなおさらのこと、学部学生の教育や教養的教育にも効果的にエネルギーを注ぎ、充実させていきたいものだと思う。

(いわむら・さとし)